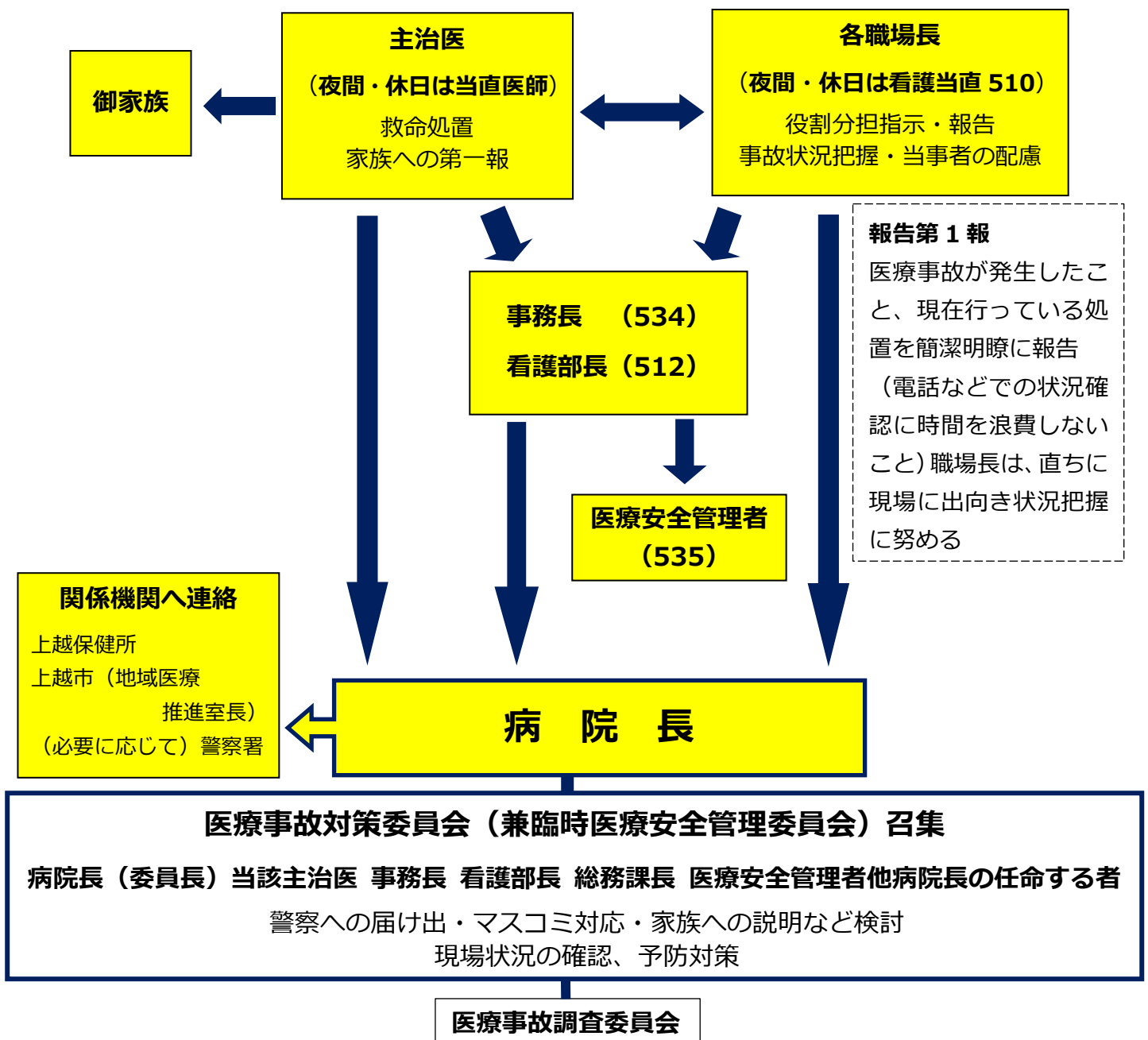


重大医療事故発生時のフローチャート

【いかなる事故であっても、患者の生命および健康と安全を最優先に考え行動する】

事故発生！ 発見者・当事者

- ① 声を上げて周囲の医療関係者を呼ぶ《人員確保》
- ② 患者の救急処置優先！
- ③ 現場に集まった人が手分けして迅速適切な体制確保
- ④ 主治医、所属長への報告第1報・現場の保全・記録



重大医療事故

患者影響度区分 レベル4以上

レベル4 : 障害が永続的に続く

- 軽度～中等度：永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない
- 中等度～高度：永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う

レベル5 : 患者死亡

(原疾患の自然経過によるものを除く)

- レベル5においては、以下の場合医療事故調査へ移行する(病院長の判断)
医療に起因した(疑われる) 予期せぬ死亡

【備考】

人員確保：平日日中であれば緊急放送コード【コードブルー】の運用も

現場保全：事故に関連した医療機器や物品(チューブ・ルート類、注射器、アンプル、薬袋に至るまで全て)等をビニール袋に入れて確実に保管(破棄しないこと)

警察介入事例では証拠物件として提出(破棄すると証拠隠滅とみなされることも)

事故現場：自分の目で客観的に細部まで観察し確認しておく

記録：記録方式を経時記録とする(事実のみを記録)

重大事故発生後の記録の訂正、書き換えはしてはならない

⇒思い出した時刻に追記する(退勤後に思い出しても追記はNGである)

患者・家族・事故当事者への配慮を忘れず行動する

1人にしない、言葉をかける、プライバシー・人権 等